

2025年度 京都芸術大学 科目選択型入試Ⅱ期

国語・英語（90分 各100点 合計200点）

< 1月30日（木） 実施 >

<注意事項>

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。また、解答用紙にも手を触れないこと。
2. 試験時間は11：30～13：00（90分）です。また、試験終了までは退室できません。
3. 使用可能用具は筆記用具（鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り）のみです。筆記用具以外の筆箱・ペンケースなど私物はすべてかばんの中にしまってください。
携帯電話を時計代わりに使用することは認められません。
4. 問題冊子は18ページです（表紙を除く）。解答用紙はマークシート用紙2枚です。国語と英語で解答用紙が別になります。間違わないように解答してください。試験開始後、問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明な箇所、ページの落丁・乱丁、汚れなどに気づいたら手を挙げて監督者に知らせること。
5. 試験開始後、まず解答用紙の所定欄に受験番号、氏名・フリガナを記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙に記入すること。解答はすべて鉛筆またはシャープペンシルで記入すること（それ以外の筆記用具の場合、解答が無効になります）。また、解答は全て選択式となっているので、解答を一つだけ選び、解答用紙の記入例を参考に正しく記入すること（誤った方法で記入をしたり、二つ以上マークした場合、解答が無効になります）。
7. 質問がある場合は、大きく手を挙げて監督者に知らせること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってもかまいません。解答用紙を提出せずに持ち帰った場合、試験放棄とみなされます。

1、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

昔からよく、「文化が違ふ」という言いかたがされる。そして例としてよく、^{たたみ}畳に布団を敷いて寝るかベッドに寝るかとか、靴のまま家にあがるか靴を脱ぐかとか、食事のときに箸を使うかフォークを使うかとか、そういう衣食住の例が挙げられてきた。こうした生活様式の違いは確かに目につくし、明治期の作家の随筆などを読んでみると、そのようないわゆる「文化(衣食住)の違い」に戸惑ったという面白おかしいエピソードがたくさんでてくる。

けれども日本の生活様式は、明治の文豪が留学した時代とつづさに比べるまでもなく、すでになりに西欧化している。ベッドで寝たりナイフやフォークを使って食事をしたりすることに戸惑う現代人はあまりいないだろうし、W 私たちが150年前の日本に住むことになった場合のほうがかカルチャーショックは大きそうだ。

ところが、私が「外国に暮らしていた」と話すと、それだけで「文化の違いで困ったり驚いたりした体験はありますか」とか、「異文化交流のために心がけるべきことは」などという質問をされることがある。おそらく質問者にとっては「よく知らない場所だから、なにか違う文化があるのではないか」という想定からでた素朴な疑問だろうし、そう訊かれるとこちらもつい真面目に(なにかあったらどうか)と考えてしまいがちだ。ロシアならやはり寒いので防寒の知恵が浮かぶし、山岳地や砂漠にはそういう場所ならではの工夫がある。でもそれは文化というよりはW 自然や気候の問題で、ロシアと北海道とカナダで同じような防寒対策をしていたりするわけだが、ここで訊かれているのはそういうことではなさそうだ。だとしたらこの「文化の違い」「異文化」とは、いったいなにを意味するのだろうか。

まず考えないといけないのは、「文化」ということばにはあまりにも膨大な意味や解釈があつて、誰もが同じようにその語を理解しているわけではないということだ。

たとえば「あの人は文化的だ」という場合、芸術への^Xソウケイが深いとか、マナーや礼儀を重んじるとかいったことが念頭に置かれる。この場合の「文化」は歴史ある古い用いられかたで、「文明」と語義が近い。いつぼう、国や民族とセットで用いられる「〇〇文化」の場合、特定の集団やグループに帰属あるいは由来するとされる独自の生活様式などがイメージされる。さらには「消費文化」のように現代社会の特徴を言い表すために「文化」が用いられることもある。さあ大変だ。ややこしくなってきたぞ。こういうときは学者先生の知恵を借りよう。ようし、その名も『文化とは何か』(天橋洋一訳、松柏社、2006年)という本を書いている、テリー・イーグルトン(1943-)を呼んでみるぞ。イーグルトン先生、いかがですか。するとイーグルトンはふむふむ、とうなずいて答えてくれる——「肯定的なものと否定的なものとの両極の間で文化の概念は現在揺れ動いている。(中略)だから文化観念の社会史は類のないほど錯綜し画面的なのである」。

つまり「文化」の定義はかなり混沌とした状況にあつて、イーグルトンはこの本のなかで「文化」という語が歴史のなかで担ってきた数多くの意味やニュアンスをひもときようとしているのだ。でもそれら無数にある理解のうち私が大切に選りとっているのは、「文化とは、人と人がなにかしらの共通の様式を用いて理解しあうための営みである」という考えかただ。それ

は、「かつては合意の領域であつた文化がいまや闘争の領域へと変貌」してしまつた——つまりは、理解しあふ営みという最も重要な点がおろそかになつて、互いの違いを強調し優劣を決めたがるようになってしまつた現代において、文化をふたたび「合意の領域」に打ちかえらせる考へかただからだ。音楽という芸術分野を思い描くとわかりやすい。人間は同じ楽器を弾いたり、いくつもの楽器を合わせて演奏したりすることによつて音を生みだす。音楽をやる人にとって、同じジャンルの音楽をやっている人というのは、当然ながら「共通の文化」を持つ人々である。ピアノならピアノの、チェロならチェロの音色のために技術を駆使し想いをこめ、よほど耳のいい人でないとわからない微妙な音の違いにも気づき、音によつてわかりあう。もちろんそれをひとつの「文化」とみなすにあたつてはさまざまな条件がつく。

たとえば、私の通つていた文学大学で20世紀のロシア文学を教えていたセルゲイ・フェジャーキン先生は、クラシック音楽の作曲家スクリャービン、ムソルグスキ、ラフマニノフの伝記を著していることでも知られる音楽マニアだが、あるとき授業にラフマニノフのピアノ曲『鐘』の音源を持つてきて、みんなに聴かせてくれた。そしてこの曲の音にロシア正教会の鐘の音が重ねられていることを解説し、さらにそれを念頭に置いて書かれた文学作品の話をして「これがわからないと読んでもわからないですからね」と説明した。つまり宗教的要素が音楽に、そして音楽が文学に、追加の要素として加わっているということだ。

すべての文化は多かれ少なかれ複合的なものだから、こんなふうに別の種類の文化がふまえられている例は珍しくない。けれどもそれらはあくまでも付加的な要素であつて、ひとつひとつの文化はその技術や知識を身につけた人々の共有する認識こそを大切に、「人と人が共通の様式を用いて理解しあふ」という原点に基づき、日々刻々と姿を変えながら、より広く深い「理解」の方向へと進むべきものである。

ここで最初の質問に戻つて、考えてみよう。私が外国に暮らしたという話から、質問者はなかば自動的に「異文化」という単語を導きだしてしまつている。これはすでに質問のたてかたがおかしいのである。「外国」と聞いてそれをすぐに「異文化」というイメージにつなげてしまふ人がまず認識を改めなければいけないのは、「文化」の枠組みは場所（ましてや国籍や民族で）決まるものではないということだ。

なぜこれにこだわるかという、と、「異文化」という考えかたには前提として「自分の（属する）文化」というものが不可避免的に（しかも自ら選びとつたものではなく、生まれた国や民族に帰属させられるものとして）想定されていて、それはさきほど触れた国や民族の冠せられる「〇〇文化」と結びつき、簡単に排他的な姿勢（「異なる」ものに対する疎外や排除）につながつてしまふからだ。

たとえば、東京都教育委員会が2008年から配布している「日本の伝統・文化理解教育の推進」という資料がある。それによると「異文化を理解し大切にしようとする心は、自国の文化理解が基盤となつて、はぐくまれるもの」らしい。なんとも不思議な説明だ。「異文化」の対義語がどうして「自文化」でも「自分の文化」でもなく「自国の文化」なのか。この「国」という概念はどこからなんのためにでてきたのか。こうした箇所に根拠なく暗黙の了解

のように侵入してくる概念には、およそなんらかの C 思惑がある。

この資料ではこれらについてなんの説明もないまま、七夕や三味線や茶道などいかにも日本の「伝統文化」の枠内で語られがちな例が挙げられていったすえに、「日本人としてのアイデンティティの確立」が唐突に「伝統・文化理解教育」の意義として示される。もちろんここで「伝統」「文化」として挙げられている諸文化にはなんの罪もない。けれども「異文化」と「自国の文化」の境界を明確に線引きし、特定の国籍の人々が属するものとするのは、あまりに強引であるばかりか、Y 不正確である。七夕も三味線も茶道ももともととは、いまの「日本」や「中国」といった国の概念のない時代に、ユーラシア大陸や琉球諸島といったほかの地域から伝わってきた風習や楽器などが発展したものだ。

じゃあここでもうひとりの研究者、エドワード・サイード（1935～2003）を呼びだしてみよう。サイード先生、どうですか。サイードは言う——「いかなる文化も単一で純粋ではない。すべての文化は雑種^{雑種}的かつ異種^{異種}混淆^{混淆}的で、異様なまでに差異化され、一枚岩的ではない」（『文化と帝国主義』1、大橋洋一訳、みすず書房、1998年）。つまり、「文化」とはいろいろなものの混合物で、「異」だとかその逆に「純粋な」などという形容詞をつけるのは、Z 語法（つじつまのあわない単語の組みあわせ）なのだ。にもかかわらず「純粋」や「異」が主張されている場合、話者が意識的にせよ無意識的にせよなにかしらの「枠組み」を強めようとして、その枠組みの線引きに固執^{固執}するためにそうした表現を用いている可能性が高い。文化というものはそもそも、自国／他国（異国）という線引きにはなじまない。そうした固執ぬきに文化を学ぶなら、教育委員会がいうような「日本人としてのアイデンティティの確立」にはつながり得ない。文化を学ぶことはむしろ反対に、「〇〇人としてのアイデンティティ」をほぐし、解消し、もっと広い地平に踏みだすことなのだ。

それにまず大前提として、人には自分の背負う「文化」を選び、学ぶ権利がある。私に堪えていえば、幼いころに好きになり、その「好き」を追いつづけている「本」や「小説」や「詩」の世界が、自分が最も重要とみなしている「文化」である。だからモスクワの文学大学は自分にとっては「異文化」的な環境ではまったくなかったし、私が本を読む人間だとさえわかってももらえれば、同級生からも異質な存在とはみなされず、すぐに仲間になれた。もちろん言語を学ぶ必要はあったが、学べるものは学べばいいだけのことだ。私は日本にいても、たとえば『トム・ソーヤの冒険』も『メリー・ポピンズ』も知らないし、トルストイもユゴーもメルヴィルも読んだことも聞いたこともない」という人とはあまり会話が続く気がしないが、国際翻訳者会議などで世界の文学研究者や翻訳者に出会い、^{*2}ブロークや^{*3}エセーニンの話をすれば、フランスの人とも中国の人ともイスラエルの人とも容易に通じあえる。

心配しなくて大丈夫。思うままに好きな文化を選び、その知識や技術^{技術}を磨いていけば、誰でも世界じゅうに「共通の文化」を担う人を見つけられるから。

（奈倉有里『ことばの白地図を歩く 翻訳と魔法のあいだ』より。文章を省略した箇所がある。）

註

- * 1 文学大学……筆者の留学したロシア国立ゴーリキー文学大学。
- * 2 ブローク……アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・ブローク（一八八〇～一九二二）ロシアの詩人。
- * 3 エセーニン……セルゲイ・アレクサンドロヴィチ・エセーニン（一八九五～一九二五）。ロシアの詩人。

(1) 空欄

W

（二箇所ある）に入れるのに最も適切な語句を選びなさい。

- ① けだし
- ② やおら
- ③ あえて
- ④ むしろ

(2) 次の①～④のカタカナを漢字で書きあらわしたとき、傍線部X「ゾウケイ」の「ケイ」と同じ漢字が用いられているものを選びなさい。

- ① ガイシケイの会社で働く。
- ② 貿易を通してゴケイ関係を結ぶ。
- ③ 師匠にイケイの念を抱く。
- ④ 神社をサンケイする。

(3) 空欄

Y

に入れるのに最も適切な語句を選びなさい。

- ① 端的にいつて
- ② 具体的にいえば
- ③ 要約すると
- ④ 逆から考えると

(4) 空欄

Z

に入れるのに最も適切な語句を選びなさい。

- ① 撞着
- ② 反復
- ③ 異種
- ④ 省略

- (5) 傍線部 A 《文化をふたたび「合意の領域」にたちかえらせる》について、次の本文中の語句のうちから、その意味に最も近いものを選びなさい。
- ① 互いの違いを強調し優劣を決めながらようになってしまった
 - ② 宗教的要素が音楽に、そして音楽が文学に、追加の要素として加わっている
 - ③ すべての文化は多かれ少なかれ複合的なものだ
 - ④ 人と人が共通の様式を用いて理解しあう
- (6) 傍線部 B 「これはすでに質問のたてかたがおかしいのである」とあるが、なぜ「おかしい」のか。その説明として最も適切なものを選びなさい。
- ① 「異文化」という考え方の前提には「自分の文化」という意識があるから。
 - ② 文化の枠組みは場所や国籍や民族で決まるものではないから。
 - ③ 「外国」と聞くとすぐに「異文化」という単語を連想しているから。
 - ④ 国や民族が違えばそれぞれの伝統文化も異なってくるから。
- (7) 空欄

C

 に入れるのに最も適切な語句を選びなさい。
- ① 合理的で必然的な
 - ② 神秘的で超越的な
 - ③ 近代的で偽善的な
 - ④ 支配的で扇動的な
- (8) 本文の内容に合致しないものを一つ選びなさい。
- ① エドワード・サイードの考え方によれば、「文化」について「純粋」や「異」が主張されている場合、何らかの操作的意図が働いている。
 - ② 文化を学ぶことは、民族や国家という枠組みを超えてみずからのアイデンティティを広げることにつながる。
 - ③ 日本の伝統文化の歴史的由来を理解することは、日本人がみずからのアイデンティティを確立することに寄与する。
 - ④ 人は自分の好きな文化を選び、学ぶことができるし、その場合、言語の違いは根本的な障害とはならない。

2、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくの個人史を話そう。6年一貫教育の私立男子校に入学したとき、中学高校紛争と呼ばれる学校側と生徒側の激しい対立が続いて、数カ月間授業がなかった。公園で野球をしたり博物館に行ったりすると、1時間で1学期分の体育や理科の成績がついたりした。

学校が始まっても、クラス集会だ、学年集会だ、全校集会だ、と生徒たちが主催するイベントだらけ。「セクト」と呼ばれる政治集団に所属する生徒もいて、「内ゲバ」と呼ばれる暴力的な対立もあった。内ゲバがこわかったぼくは、中学2年で空手を習い始めたほどだ。

紛争が終わったのは中3のとき。あれ果てていた。窓は破れ、ロッカーはこわされ、壁には穴があいていた。授業中に紙マージャンやトランプをするのは当たり前。学年旅行も集団行動は一切ない。旅行先でストリップに行ったり、他校の女の子を連れてきたりする生徒もいた。

ぼくの卒業した男子校は、いまも昔も校則がない。ただあまりにメチャクチャになって3つのルールができた。1つが「校内でのマージャン禁止」。2つ目が「授業中の出前注文禁止」。3つ目が「校内で鉄ゲタをはかないこと」。ギャグみただけで本当の話なんだ。

授業中「へーい毎度」とラーメン屋のおじさんがやつてくるのもたびたびだった。当時はやっていた『柔道一直線』に影響された連中が、鉄ゲタをはいてきて廊下がボロボロになった。だからそういうルールができたわけだけけれど、それくらいメチャクチャだったんだ。

ガンコな理事長や教師という権力が、ぼくたちをしばりつけている。だったら戦ってそれを取りのぞけばいい——。実際戦って、ぼくたちは勝った。じゃあそれで学校はよくなったのか？ ぼくはあれ果てた風景を目の前にして、マジで頭をかかえてしまったんだ。

一番ひどかったのが、ぼくたちの学年だった。ぼくたちの大学受験について、教師たちは「こいつらはもうダメだ」ってあきらめていた。ところがどっこい。いざフタをあけると、まともに授業を受けなかったぼくたちが、いまでも歴代1位の進学実績を残したんだ。

ぼくたちの学年にはすごいエリートがいっぱいいた。エリート教育を考えるとときに大きなドントになる。ぼくたちは戦いに勝ったのに学校はメチャクチャになった。何もたよれないから、なんでも自分の頭で考え、自分の力で前に進むしかなかった。それが実績につながったんだ。

あとからふり返ると、その時期の経験が、いまのぼくのかえり方やものの見方に大きく影響していることに気がつく。ぼくは、何もかも疑って日本的常識をこわす社会学者として知られている（悪名が高い）。そうした社会学者としての土台は、そのころにできたんだね。

ぼくたちは自由だった。何をしても文句はいわれぬ。でもすぐそれが問題だとわかった。教師たちにしばられて命令されていれば、何をしてもいいかわからないということはない。ガンコな理事長みたいな敵がいるときも、戦えばいいのだから、迷うことはない。

ところが戦いに勝って、ガンコな教師も理事長も学校を辞めて、自分たちをしばりつけていた A がすべてなくなったとき、ぼくたちは何をすればいいのかわからなくなって苦しむようになった。 B とは自分で自分を支えることだ。でもこれが苦しくて難しいんだ。

でも、おかげでぼくたちにはチャンスがあたえられた。自分は何者なのか、本当は何がしたいのか、何を他人にはめてもらいたいのか、何をダメだといわれたら苦しいのか、徹底的に考

えることになった。こういう経験がなければ、いまのぼくはなかっただろうと思う。

こういう「^Xシコウサクゴ」の中、そのころ流行していた街頭演劇や、ジャズ喫茶や、ヤクザ映画やピンク映画（ちのポルノ映画）にハマった。ぼくは制服も着ていなかったし、きたないらしい恰好をしていたから、18歳未満は出入り禁止の場所でもセーフだったんだね。

そんなふうにはぼくの居場所は、学校の中だけじゃなく、町に広がっていった。学校の外には、学校の中にはいない様々な人がいたし、目に入ってくる風景も新鮮だった。そういう人たちとの交流を通じて、ぼくは学校での苦しさも、適当にやり過ごせるようになった。

こういう中学高校時代の経験を通じて、中身がなくて、役割や組織の力というゲタをはいてはっている人間と、^Cそういうものを一切たよりにしないけれど人間としての力にあふれている人間とを、区別できるようになった。これはいまのぼくの能力でもある。

それと同時に「生きる場所が違えば、感じ方も考え方も違う。みんなが同じ感じ方や考え方をしろと簡単にはいけない」と思うようになった。これもいまのぼくの考え方そのものだ。学校の中と違って世の中には「ひとつの答え」が見つからないことばかりだ。

学校は単なる通過点だ。結果として立派な大人になれば、学校は役割を果たしたことになる。じゃあ、「いい学校」は立派な大人を生み出せるのか。必ずしもそうじゃない。学校がメチャクチャであればこそ、生徒が自分の足で立って考え、行動することだつてあり得るんだ。

「^{しゅいしゅぎ}主意主義」と「^{しゅちしゅぎ}主知主義」という区別がある。これも、さかのばれば古代ギリシアにたどり着く考えた。「主意主義」では、「この世には不条理や^Yリフジンが満ちている」と考える。それを否定して、「人間の知識はすべてをおおえる」と考えるのが「主知主義」だ。

ぼくは、「何がいいか悪いかは前もってわからない」ことを紛争の経験から学んだ。これは「主意主義」の立場そのものだ。社会学は「主意主義」の立場だ。社会学では人が何かしたとき、社会のせいだけにしない。「その人が意思したから」と「意思」を出発点にする。

たとえば君がおにぎりを食べたとする。なぜ君はおにぎりを食べるという行為を「選んだ」か。それは「意思」したからだ。その「意思」は、君にあるとき、ふと「訪れた」――。そんなふうに社会学は考える。「意思」はふとある人に「訪れて」その人を前に進める。

ひさんな事件が起こると、「家庭環境が……」「社会が……」という話になる。でも、そうした背景は、事件を起こした人に「前提をあたえた」だけだ。家庭環境や社会は、行為の前提をあたえただけなんだ。その前提のもとで、その人が何をするかは、彼や彼女の「意思」による。

「意思」は、あそこに山があつて、ここに川があつて、ということがらと同じで、「訪れる」ものだ。「意思」という大もとからわかれた「意思」を「意思する」ことはできても、大もとの「意思」を「意思する」ことはできない。この考え方を覚えておくとい。

ぼくが社会学者だというと、なんでも社会のせいにするとか、なんでも理屈で考えるというイメージを持たれがちだ。けれど、それはあり得ない。^D「意思」は「意思」じゃないものに還元できない。社会学者は「意思」の前提となる社会について分析を加えるだけだ。

「意思」は人間の理解をこえる。人間の考えた理論にとっては「こわい存在」だ。社会学では、こわくないように「その人が選んだ」というふうにいい方を加工する。その上で、「それを選

んだ背景」を分析する。 E 「その人が選んだ」という事実は消せないんだ。

ここで「規則功利主義」にもどろう。「多くの人が幸せになれるルールがあるはずだ」とエリートたちが考えてくれて、思いついたとする。そのルールを実行して、でも君が幸せにならなかったとする。どうしてか。ルールが間違っていたのか。必ずしもそうはいえないんだ。「主意主義」の立場では、「どんなに社会がよくなっても、人が幸せになるとは限らない」と考える。君がお金持ちになれば幸せになれると思っていたとする。それがお金持ちになったとたん君は「なんだ、お金持ちになるなんてこんなことだったのか」みたくなる。

そして君はとつぜん、別のことを意思し始める。「意思」はいつなるとき別の「意思」に変わるかわからない。だから「意思」はアテにならない。でもそれが人間のいいところだ。「意思」が絶えず変わるから、いい社会になっても社会は止まらずに回り続けるんだよ。

「意思」は変わる。だから「これさえあれば人間は幸せ」ということはない。ぼくが紛争の経験から学んだように、自由になれば学校がよくなるとはいえない。でもメチャクチャな学校こそが人を育てることもある。社会も同じだ。いい社会を単純に考えちゃダメなんだ。

悪い社会は人を不幸せにする。ぼくは社会学者としていい社会にしようと努力してきた。これからもそうしようと思う。でもそれが成功しても、^Fみんなが幸せになるとはいえない。みんなを幸せにしたいくても、幸せを単純に考えちゃいけない。そう考えるのが社会学者だ。

もちろん、実際にまある多くのルールには、管理する側の都合のよさとか、ルールを作る権力を持った人々が自分の利益を守ろうとするエゴイズム（自分中心主義）がある。ぼくは、それを当然批判していく。でも、その程度のことでみんなが幸せになれるわけじゃないんだ。

（宮台真司『14歳からの社会学』より。）

- (1) 次の①～④のカタカナを漢字で書き表したとき、傍線部X「シコウサクゴ」の「ゴ」と同じ漢字が用いられているものを選びなさい。

- ① 私たちを訓戒した先生のゴキの強さには襟を正さざるを得なかった。
- ② きびしい修行を経た聖人にはゴコウが射しているように思われた。
- ③ 試合には負けたが彼女と親しくなれたのはうれしいゴサンだったかもしれない。
- ④ 生活にゴラクというものがなくどうしても無味乾燥な毎日になりがちだ。

- (2) 次の①～④のカタカナを漢字で書き表したとき、傍線部Y「リフジン」の「ジン」と同じ漢字が用いられているものを選びなさい。

- ① 与えられた仕事をジンソクに処理する。
- ② その年の自然災害による被害はジンダイなものだった。
- ③ 「医はジンジュツ」という言葉を体現するかのような医師だ。
- ④ 地元の祭りの成功にジンリヨクする。

(3) 空欄

A

、空欄

B

 に入る語の組み合わせとして最も適切なものを選びなさい。

- ① A 敵 B 戦い
- ② A 障害 B 自由
- ③ A 障害 B 意思
- ④ A 問題 B 意思

(4) 傍線部C「そういったものを一切たよりにしないけれど人間としての力にあふれている人間」とはどういう人間か。説明として最も適切なものを選びなさい。

- ① 役割や組織の力を借りて自分を大きく見せたりすることがなく、世の中において何事にも答えはひとつとは限らないということを知っている、立派な人間。
- ② 役割や組織の力を借りて自分を大きく見せたりすることがなく、苦しいことを避けるためにはどうすればよいのかを考えることができる人間。
- ③ 役割や組織の力を借りて自分を大きく見せたりすることがなく、多くの人との交流を重ねることで、生きるうえでの苦しさを適当にやりすごせる人間。
- ④ 役割や組織の力を借りて自分を大きく見せたりすることがなく、自分を徹底的に考える経験を通して、自分で自分を支えることができる人間。

(5) 傍線部D《「意思」は「意思」じゃないものに還元できない》とありますが、その説明として最も適切なものを選びなさい。

- ① 意思は、ふいに訪れるものであり、山や川が自然現象の結果として生まれたように、意思そのものの起源を人間が知ることはできない。
- ② 人が何かをするということは、ある意思がふと訪れたからなのだが、家庭環境や社会はその原因ではなく、あくまで前提を与えだにすぎない。
- ③ 人が何かをするということは、ある意思が理由も根拠もなくふと訪れたからなのだが、その意思を前もって意思することもできる。
- ④ 意思は人間の理解をこえる、「こわい存在」だから、社会学者は意思の前提となる社会について分析を加える。

(6) 空欄

E

 に入るのに最も適した語句を選びなさい。

- ① だから
- ② けれど
- ③ つまり
- ④ ところで

(7) 傍線部F「でもそれが成功しても、みんなが幸せになるとはいえない」とはどういうことか。説明として最も適したものを選びなさい。

- ① 主意主義の立場では、どれほど社会がよくなっても、みんなが努力をし続けなければ幸せになれるとは限らないと考えるということ。
- ② 人間の意思は絶えず変わり、社会もつねに変わり続けるので、そもそもよい社会というものは成立しないから、みんなが幸せになることもないということ。
- ③ 社会を構成する人々の意思は変わり続けるので、幸せの形は複雑なものとなり、これさえあればみんなが幸せでいられるというものはないということ。
- ④ いまの社会にあるさまざまなルールには、管理する側のエゴイズムが反映されているが、それを批判したところで幸せにはなれないということ。

(8) 本文の内容に合致しないものを一つ選びなさい。

- ① 自分を支えることは苦しいが、そうしようと励むことで、同じような努力をしてきた人を見分けることができるとともに、様々な生き方があると気づくこともできる。
- ② 人間の知識はすべてをおおえる、という主知主義の考え方に立てば、よい社会を作ることによってみんなが幸せになることができる。
- ③ 意思は人間にとってふと訪れるもので、その内容は、意思が訪れる前提となる社会によつてのみ決まる。
- ④ どれほど社会がよくなっても、人の意思はつねに変わるので、社会も同様に変わり続けていくが、それでもよい社会を作るために社会学者としての筆者は努力し続けてきた。

3、次の各文の傍線部の読み方として適切なものを選びなさい。

- (1) 芸術が一部の好事家のものであつてはならない。
 ① こうしか ② すきずか ③ こうずや ④ こうずか
- (2) 彼女は強靱な精神の持ち主だ。
 ① きょうじん ② きょうかく ③ きょうけん ④ べいじん
- (3) 恩師から薫陶を受けた。
 ① ふんとう ② くんとう ③ くんこう ④ けんとう
- (4) 彼は将来の活躍が囑望されている逸材だ。
 ① ぞくぼう ② しょくもう ③ しょくぼう ④ ぞくほう
- (5) 卒業できたのは友人たちの励ましの賜物だ。
 ① たまもの ② しぶつ ③ ちようぶつ ④ おくりもの
- (6) 他人の論文の剽窃であることが発覚した。
 ① しょうせつ ② せつさい ③ ひようさい ④ ひようせつ

4、次の各文のカタカナの部分に漢字に直したときの傍線部に該当する漢字を選びなさい。

- (1) これを成し遂げるのはシナシのわざだ。
 ① 指 ② 思 ③ 至 ④ 試
- (2) 資料をセイサする必要がある。
 ① 制 ② 静 ③ 性 ④ 精
- (3) これは昔からシシエしている作家の本です。
 ① 私 ② 師 ③ 止 ④ 資
- (4) この問題についてあえてカンケンを述べたい。
 ① 閑 ② 観 ③ 管 ④ 感
- (5) 人生はヒキこもこもだ。
 ① 非 ② 悲 ③ 秘 ④ 否
- (6) 彼は会見でゲンメイを避けた。
 ① 限 ② 減 ③ 原 ④ 言

1. 次の英文を読んで、以下の問いの答えとして最も適切なものを選びなさい。

Japan's "Golden Week" holidays just ended in early May, and workers in the country might have noticed the 69-day wait until the next national holiday. As social media users and others cry out for a new holiday, with some calling the month of June "hell," the Mainichi Shimbun checked what steps are underway to potentially fill the gap with the creation of a June holiday.

New holidays are in principal passed by legislators in the Diet. Up until now, 16 national holidays have been established by legislative amendments of the Act on National Holidays⁽¹⁾, the most recent being Aug. 11 as Mountain Day in 2016. That amendment was submitted by the ruling and opposition parties⁽²⁾ of the time following proposals drafted by an interparty alliance of lawmakers with the goal of creating Mountain Day to give August a national holiday.

So, why doesn't June have a national holiday? "There is no particular reason. Holiday laws are to be discussed in the Diet and established with the public's broad understanding," commented an official from the Cabinet Office which is responsible for matters relating to the national holiday law.

December, too, lacks a public holiday, with an unbroken stretch of five-day workweeks from Labor Thanksgiving Day on Nov. 23 until New Year's Day. But this period of 38 days is only about half that between the end of Golden Week until July's Marine Day arrives on the third Monday of July.

Concrete steps are being taken to tackle the June holiday gap.

Hisao Tamada, 70, of the nonprofit Japan watch research group based in Osaka's Abeno Ward and others are calling for June 10th to become a "time memorial" day.

"Compared to Marine Day, which came about suddenly, time memorial day has a long history," Tamada said. And he's not wrong. According to descriptions in the ancient Nihon Shoki, Emperor Tenji introduced timekeeping to the people using a water clock in the year 671, and this day supposedly falls on June 10 on the modern calendar.

It became a commemorative⁽³⁾ day in 1920. Business leader Eiichi Shibusawa and others in a working group for the improvement of people's lifestyles, led efforts to respect timekeeping, aiming to protect its accuracy.

About five years ago, Tamada began activities such as contacting lawmakers to turn the date from

a commemoration day into a national holiday. “The Japanese are unmatched when it comes to punctuality. It’d be good to consider where this accuracy comes from at least once a year,” he said.

June 5 is recognized as World Environment Day. The town of Asahi in Yamagata Prefecture, which is the site of an “air shrine” that deifies the atmosphere, set that date by municipal ordinance⁽⁴⁾ as “air day,” and the municipal assembly has submitted a request to the national government seeking to turn it into a national holiday.

(<https://mainichi.jp/english/articles/20240507/p2a/00m/0li/015000c>)

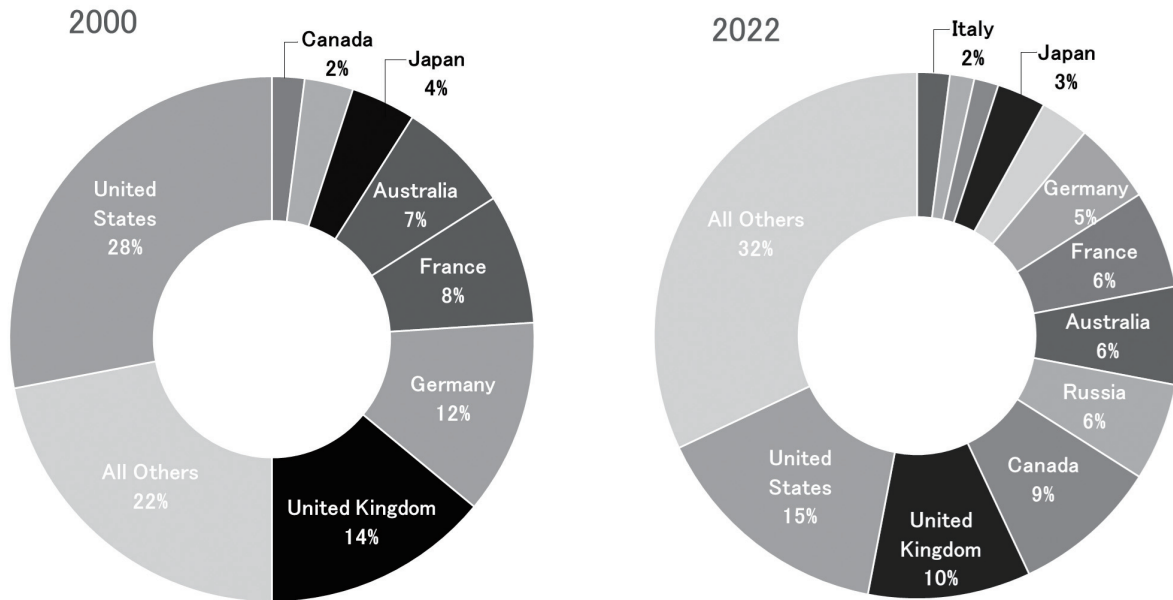
- 注：(1) legislative amendments of the Act on National Holidays — 国民の休日に関する改正法
(2) the ruling and opposition parties — 与野党
(3) commemorative — 記念の (commemorate — 記念する)
(4) municipal ordinance — 条例

- (1) What is the primary concern among workers in Japan mentioned in the passage?
- ① The lack of holidays in June
 - ② The need for a longer Golden Week
 - ③ The difficulty of proposing new holidays
 - ④ The desire for more national holidays in general
- (2) According to the passage, how many national holidays have been established through legislative amendments?
- ① 16 ② 20 ③ 10 ④ 4.5
- (3) Which national holiday was most recently established?
- ① New Year’s Day
 - ② Labor Thanksgiving Day
 - ③ Mountain Day
 - ④ Marine Day

- (4) Who is recommending June 10 becoming a national holiday?
- ① Hisao Tamada
 - ② Eiichi Shibusawa
 - ③ The people of the town of Asahi
 - ④ Emperor Tenji
- (5) Why is it suggested that June 10 should become a national holiday?
- ① To commemorate the introduction of timekeeping in Japan
 - ② To celebrate the summer season
 - ③ To honor the founding of the town of Asahi
 - ④ To recognize World Environment Day
- (6) Which date has been proposed by the town of Asahi in Yamagata Prefecture to become a national holiday?
- ① June 5
 - ② June 10
 - ③ August 11
 - ④ November 23

2. 次のグラフを見て、以下の問いの答えを選びなさい。

Top Host Countries for International Students, 2000&2022



(<https://www.applyboard.com/applyinsights-article/which-countries-will-be-the-next-big-destinations-for-international-students>)

- (1) According to the graph, which country received the highest number of international students in 2000?
 - ① Canada
 - ② The United States
 - ③ France
 - ④ Germany
- (2) According to the graph, by what percentage points did the United States lose international students from 2000 to 2022?
 - ① 28
 - ② 15
 - ③ 13
 - ④ 43
- (3) According to the graph, in which country did the percentage of international students decrease the least from 2000 to 2022?
 - ① In the United States
 - ② In the United Kingdom
 - ③ In Australia
 - ④ In France

(4) What statement about the graph is truest?

- ① The number of international students who will go to Japan is likely to increase in 2024.
- ② The percentage of international students in France greatly increased from 2000 to 2022.
- ③ Students from the United States did not increase in number from 2000 to 2022.
- ④ International students have more potential choices in 2022 than they did about two decades ago.

3. 次の文の空所(1)、(2)を含む6個の空所にはA群の6個の語が入り、空所(3)、(4)を含む6個の空所にはB群の6個の語が入る。この時空所(1)～(4)に入る語を選びなさい。

Mount Everest, the world's highest peak, _____ (1) _____ around the globe. Its towering height and challenging stretch of land _____ (2) _____ symbol of adventure and endurance.

A 群

- | | | |
|------|------------|------------|
| ① it | ② climbers | ③ makes |
| ④ a | ⑤ from | ⑥ attracts |

The Roman Empire, once the most powerful civilization in the world, left a _____ (3) _____ architecture, law, and governance. Its influence _____ (4) _____ in many aspects of modern society.

B 群

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| ① in | ② evident | ③ still |
| ④ lasting | ⑤ is | ⑥ legacy |

4. 次の問い(1)、(2)それぞれについて、各単語と最も意味の近い単語を選びなさい。また問い(3)、(4)それぞれについては、各単語と反対の意味を持つ単語を選びなさい。

(1) amount

- ① entity ② volume ③ posture ④ status

(2) permission

- ① consent ② audience ③ signature ④ spouse

(3) allow

- ① permit ② forbid ③ guess ④ conclude

(4) accidental

- ① intentional ② friendly ③ capable ④ profitable

5. 次の _____ に当てはまる語句として、最も適当なものを選びなさい。

(1) A: Have you seen the latest episode of that cooking show?

B: Yes, and the chef's recipe _____ delicious, didn't it?

- ① looked ② looked for
③ looked on ④ looked after

(2) A: I heard you're planning a barbecue this weekend. Do you need any help with preparations?

B: That's kind of you. We've got most things _____, but if you could bring a salad, that'd be awesome.

- ① covered ② covering
③ cover ④ to cover

(3) A: How was your weekend getaway?

B: It was amazing. We went hiking in the mountains and _____ some trails we'd never been on before.

- ① tripped ② explored
③ exchanged ④ transported

- (4) A: Did you hear about the new restaurant that just opened downtown?
B: Yes, I saw it on social media. It's _____ have a great brunch menu.

- ① supposed ② suppose
③ supposed to ④ supposing to

- (5) A: I saw your photos from the hiking trip. How was it?
B: It was amazing. I highly recommend _____ that trail.

- ① to try ② try
③ trying ④ tried

- (6) A: How's the new car treating you?
B: It's been great so far. I love the ride.

- ① smoothly ② smoothness
③ smoothing ④ smooth

6. 次の文の下線を引いた空所(1)～(4)に当てはまる語(句)として、最も適当なものを選びなさい。

The Kabushima Festival was held on Kabushima Island in Hachinohe, Aomori Prefecture, known as a breeding ground for black-tailed gulls, and (1) many tourists on April 20.

As the black-tailed gulls flew around in the blue sky, the ____ (2) ____ contest to imitate the birds' call was held on a special stage. Nine groups participated in the contest, and children who performed cute imitations and contestants ____ (3) ____ sounded just like the real thing were applauded.

The winner, a 15-year-old high school student from Hachinohe, said, “I was happy to be able to perform the call of a black-tailed gull (4) by them in my favorite place, Kabushima Island.”

(<https://japannews.yomiuri.co.jp/features/japan-focus/20240508-184754/>)

- (1) ① distracted ② disappeared ③ appeared ④ attracted
- (2) ① predictable ② successive ③ annual ④ questionable
- (3) ① whom ② who ③ whose ④ to whom
- (4) ① surrounded ② imagined ③ originated ④ avoided